

珠海に出張した際に利用するホテルのレストランにて撮影した写真である。  
最上階(29階)に位置するこの場所は、このフロアだけが約1時間かけてひとまわりする展望レストランとなっており、珠海の町を360度のパノラマでとらえることができる。  
そのパノラマの一角に、最近、加わったのが、香港—珠海・マカオ大橋の工事風景である。  
画面の右はマカオで左は珠海、そして中央の洋上・水平線付近に、埋め立て工事現場があり、多数の工事用船舶が群がっているのがお分かりいただけるであろうか。  
香港—珠海・マカオ大橋の全長は50キロであるが、主体は、30キロの「海中道」であり、その基点は、香港側、珠海側にそれぞれ建設される人工の島となる。  
従い、巨大な橋げたがあって、その間に橋がかかるという従来の洋上橋のイメージとは異なる。  
この画面にある埋め立て工事は、珠海(マカオ)側の人工島建設のためのものである。  
さて、この回転レストランの入口には、「小平南巡在旋宮」と記された鄧小平の写真が飾られている。  
1992年1月、時の実質的指導者であった鄧小平氏は、この地も含む中国南部一帯を視察した。  
このとき各地で行った一連の講話、いわゆる「南巡講話」にて、外資導入や市場経済化の促進を力説し、その後の中国経済急発展の大きな礎(いしずえ)となった。以来、時を経ること20年。  
この地区のみならず、中国のさらなる飛躍的な発展を象徴する大プロジェクトがここにある。  
これが着手され、現実に目の前で動いていることに、様々な感慨を覚える。  
順調に工事が進めば5年後の開通となる。

